

# 勘所はここ

## 技術士の目線

35

### 民生用途も

ロシアの友人からの誘いが発端となり、ISTCプロジェクトという米欧口の国際共同研究に参加した。旧ソ連の有益な科学技術を日米欧の基金を使ってさらに発展させ、広めるのが目的である。大学の研究者や企業の技術者と立場はいろいろ



ナット部長  
調査部  
ウオール  
取締役  
稲垣 正晴

### 個人的国際交流

い。実用性に関し意見したが、なかなかわかっていない。計測時間を短くする

## 日米欧口で共同研究

### 地雷用レーザー実用化

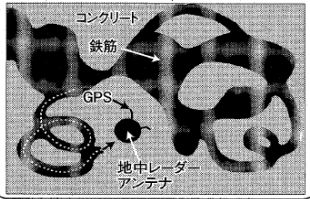
ろであるが、皆、物理計測に関連した共通の専門を持っている。私が関与したのはロシア製地雷探査用地雷レーダーの遠隔操作に関する研究開発であるが、民生用途も念頭に置く。日本では、鉄筋探査やコンクリート剥離探査という民生用に利用できると思った。でもこのままでは効率が悪くて使えない。どう現れるのかを見せる

でもらえない。共産主義社会の名残だろうか、経済意識、効率感覚が欠落している。そこで、そのレーダーを実際に購入した。廉価で標準価格のおそらく40%程度ではないかと思う。

相互理解深める  
データを取得して鉄筋や剥離がレーダー画像にどう現れるのかを見せる

共同研究は儀礼的關係では進まない。重要なのは、専門家として自分の知識を

国際共同開発が進む無人計測システムの概念図



### This Word

ISTC=国際科学技術センター。日・米・欧州連合(EU)・カナダなどからの拠出金により、ロシアその他旧ソ連邦独立諸国の大量破壊兵器関連研究者・技術者の平和目的の研究プロジェクトを支援するために設立された国際機関。旧ソ連崩壊後の資金不足が発端となった。ロシア経済復興により、現在ではその役割を減じている。

据えれば接点もてる。そして、実用に供したいと思う気持ちがあればうまく利用できる。

彼らも同じだ。意見もたくさん舞い込む。インターネット時代ならではの進め方である。彼らの技術を理解して頼り、自分の技術も理解してもらって注ぎ込む。国際共同研究の大切な構えではないかと思う。

(水曜日掲載)

また、行動がダイナミックで躊躇しないのに驚く。

荒削りだが、思いがけなくうまく行くことがある。想像で否定したり、単なる研究だとして分離してしまったりしては何もならない。共通語は科学である。科学を基本に

## 科学技術・大学